

9月23日(土・祝)

午後2時より
かたらいの道市民スペース

新しい社会を切り開くため、若い人たちの活力ある市民活動に期待がかかります。でも、実際にはそのような活動が多いわけではありません。

そこで、市民活動（ボランティア活動）に取り組んでいる学生や若手職業人に活動への取り組みや想いを語っていただき、若年層における市民活動の輪を広げる可能性をみんなで考えましょう。

きっと、ご自身の明日への勇気も湧いてくると思います。

高校生、大学生の
参加也大歓迎！

学生からシニア、皆で
考えて企画しました！



◆パネリスト

- ・亜細亜大学 一般奉仕会『細流』
- ・亜細亜大学 ボランティアセンター
- ・成蹊大学 学生ボランティア本部Uni.
- ・早稲田大学 環境ロドリゲス
- ・神村 美里 氏 (TeensTownむさしの)
- ・榊 佑奈 氏 (国分寺市公民館職員)

◆コメンテーター

- ・森本 扶 氏 (埼玉大学非常勤講師)

- 日時：2023年9月23日(土・祝)
午後2時～4時(1時30分開場)
終了後4時30分まで意見交換会を開催

- 会場：かたらいの道市民スペース
(三鷹駅北口 徒歩5分)
武蔵野市中町1丁目11番16号
武蔵野タワーズ スカイクロスタワー



- 定員：50名(申込順、事前申込が必要です)
- 参加費：無料
- お申込み：右のQRコード、または下記URLより受付
<https://forms.gle/XZCuydyetmMzhZPk9>

直接のお申込みは、下記までご連絡ください。

- お問合せ：090-5533-2316 (ジモッピーネット・田中)
tanaka95@jcom.zaq.ne.jp (同上)

未来をひらく学び
市民活動の若き担い手たち
パート2

パネリストの報告、登壇者同士の意見交換、会場とパネリストの質疑応答を通し、若い方々の市民活動の実態や想いを学びます。

シンポジウム終了後、ご希望の方はパネリスト、コメンテーターを交えた意見交換会(4時30分まで)に参加できます。

市民活動とボランティア活動

市民活動とボランティア活動は、ともに自発性・主体性、公益性(社会性)という性格をもち、社会を変えるという意味での先駆性、他者や他組織・団体と協力しながら活動するという意味でのネットワークや協働といった価値も含んでいて、類似の用語といえます。ただ、市民活動は社会変革を主眼とする市民運動を連想しやすく、ボランティア活動は無償性を条件とするという点に、若干の違いがあります。

今回のシンポジウムを企画する中で、「学生から見ると、自分たちの行っている活動は市民活動よりもボランティア活動と表現したほうがなじみやすい」という意見が出されました。そこで、このシンポジウムでは適宜、市民活動とボランティア活動を使い分けることにします。

この二つの概念についてご意見や感想のある方は当日4時以降の意見交換タイムで発言して下さると嬉しいです。

若い人たちのボランティア活動

総務省「令和3(2021)年社会生活基本調査」によると、ボランティア活動の行動者率(実施した人の割合)は17.8%(2016年は26.0%)です。ただ若年層は低く、15~19歳13.2%(同22.6%)、20~24歳12.2%(同19.2%)、25~29歳10.1%(同15.3%)となっています。

学業や仕事で忙しい年代なので、無理もないことかもしれません。それでも今回のパネリストのよう

に、積極的にボランティア活動(市民活動)を行っている人達もいるのです。その要因は何なのか、どのようにすれば若い人たちがもっとボランティア活動(市民活動)に参加できるのか、そのことも考えたいと思います。



登壇者のプロフィール

亜細亜大学 一般奉仕会『細流』

50年以上の長い歴史と伝統をもつ。「ひらけ、PEACE!」への協力、学園祭でのバザーなどの活動を実践。

亜細亜大学 ボランティアセンター

100人を超える部員を擁する。「わんぱく相撲武蔵野場所」への協力など、外部からの依頼で多様な活動を実践。

成蹊大学 学生ボランティア本部Uni.

約500人の部員から成る、大規模な団体。五つのチーム(環境・教育・国際・地域・福祉)で構成されチームを超えた各種プロジェクトも実践。

早稲田大学 環境ロドリゲス

名称の由来はインド洋のロドリゲス島。部員は100人を超え、六つのテーマ(里山・海・教育・商品開発・地域活性・早稲田)で活動。

神村 美里 氏 (TeensTownむさしの)

小学生時代に「むさしのミニタウン」に参加したことで「こどものまち」の意義を痛感。2019年以降は自らがコーディネーターとなって実践。

榊 佑奈 氏 (国分寺市公民館職員)

高校生の時から地域の踊りのチームで活動し、現在は運営に関わる立場となる。仕事でも、学びと市民活動をつなぐ役割を遂行。

◆コメンテーター

森本 扶 氏 (埼玉大学非常勤講師)

1976年生まれ。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。「子ども白書」(日本子どもを守る会編)の編集委員長を務める。主著に、『蠢動する子ども・若者』(共著/本の泉社/2015年)、『増補改訂版 日本ボランティア・NPO・市民活動年表』(共著/明石書店/2022年)ほか。

本シンポジウムの内容を反映したワークショップ「世代を超えた協働の課題と展望」も開催!

日時: 10/22(日) 午後2時より 場所: 武蔵野芸術劇場 小ホール 参加無料